

Title	三田哲学会公開シンポジウム記録
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	1977
Jtitle	哲學 No.65 (1977. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000065-0216

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田哲学会公開シンポジウム記録

昭和51年10月22日午後1時より、三田西校舎532番教室において、「日本人の自我意識をめぐる諸問題」との統一論題で「公開シンポジウム」が行われた。沢田允茂会長のあいさつに続いて、三人の講師が講演を行った。

「精神分析臨床よりみた日本人の自我」

医学部助教授 小此木 啓吾

—personal convoy—

「人生の道づれによる日本人の自我発達」

米国イリノイ大学人類学部教授 David W. Plath

「日本人はかわったか——日本人の国民性調査から」

国立統計数理研究所所長 林 知己夫

ついで、以上の講演内容について、言語文化研究所 鈴木孝夫教授からコメントがなされた。

パネラー、コメンテーターの相互討議のあと、参加者をまじえての全体討議にうつり、学生諸君の活発な発言も得て、6時まで“楽しいひととき”が展開された。

この種のシンポジウムを、来年度は6月と10月の2回、企画・実施する予定である。会員諸氏の御協力、アイデア提供をお願いする次第である。